

人もツシマヤマネコも 住み続けられる対馬であるために

これまで関わってきた人たち

これまで、国、県、市の行政の担当者以外にツシマヤマネコと共生する地域社会づくりのキーマンとなって活躍してきた人たちがいます。

○地域マネージャー制度（対馬市）

地域（行政区）にお住まいの皆さんと地域を担当する職員が、地域（行政区）と市役所を結ぶ架け橋となって、地域と一緒に汗を流し、生活に身近な課題の解決や地域の将来について、話し合い、行動する制度です。市の各担当部局の施策や事業、目標等の共有、地域のアイデアを市の取り組みに活かすための情報収集、地域の身近な問題や課題を話し合い、住民と共に解決策を考えるなどの取り組みを実施しています。

○対馬市島おこし協働隊（対馬市）

島おこし協働隊は、対馬の活性化に新たな風を吹かせようと、2011年4月に設置された市の組織です。都市出身の意欲と専門性あふれる人材を積極的に受け入れ、「島おこしの新たな担い手」＝「島おこし協働隊員」として、市長が最長3年の任期で委嘱をしています。現在6名が活動中です。

○NPO法人・ボランティア団体・企業等

これまでツシマヤマネコの保全を目的に、NPO法人、ボランティア団体、企業等が様々な取り組みを実施しています。

ツシマヤマネコを守る会（ツシマヤマネコ保護区の設置、餌場づくりなど）、ツシマヤマネコ応援団（とらやまの森再生プロジェクト、交通事故対策プロジェクト）、九州地区獣医師連合会ヤマネコ保護協議会（イエネコ適正飼養普及のための支援）、NPO法人動物たちの病院（ヤマネコやその他野生生物の救命救急活動等）、舟志の森づくり推進委員会（ツシマヤマネコとの共生を目指した森づくり）、佐護ヤマネコ稲作研究会（ツシマヤマネコが暮らしやすい田んぼづくり、地元農家の活性）、対馬ヤマネコ田んぼの楽校（上県町田ノ浜地区で年間を通じた田んぼでの体験学習の実施）、内山盆地の里やまねこ会（内山地域の元気の復活とツシマヤマネコの生息環境整備等）

○域学連携（対馬市）

学生のインターシップやフィールドワークの受け入れ、公募型短期合宿「対馬市島おこし実践塾」の開催など、学生のエネルギーと大学が持つ多様なノウハウを地域興しに活用するとともに、将来の地域興しを担う人材を育成することを目的に、対馬市と複数の大学が連携し、「域学連携」を進めています。平成25年度の対馬市島おこし実践塾には33名の学生が対馬に滞在するなど、若い活力、元気、最新情報等を地域にもたらしました。



対馬市島おこし実践塾の様子
(出典：対馬発 島おこし実践型域学連携教育プログラムパンフレット)

環境省の役割

環境省では、農林水産省と共同で「ツシマヤマネコ保護増殖事業計画」を策定し、ツシマヤマネコの保護に取り組んでいます。島内の拠点として長崎県、対馬市と共同で「対馬野生生物保護センター」を設置し、モニタリングや普及啓発、生息環境の保全など生息域内での保全対策に取り組んでいるほか、全国の動物園と連携し、飼育下での繁殖にも取り組んでいます。

また、生息数が極めて少ない下島において飼育下で生まれた個体を野生復帰させるための施設の整備や計画の策定を進めています。

これらの取り組みに加え、関係行政機関、団体、住民と連携し、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりの推進を目指してモデル事業の実施や情報共有のための取り組みを行っています。

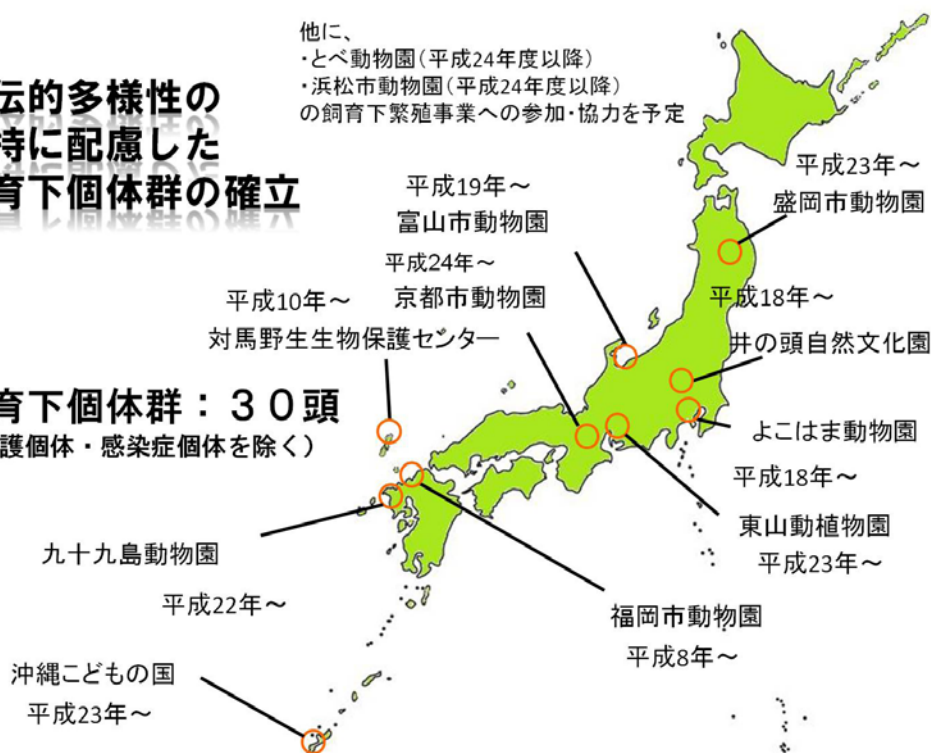
Column13

ツシマヤマネコを絶やさないために

環境省では、全国各地の動物園の協力を得て、飼育下での個体群の維持を目指してツシマヤマネコの飼育下繁殖に取り組んでいます。2015年1月9日時点で、全国9箇所では合計30頭のツシマヤマネコの飼育を実施しており、科学的データの収集や解析、全国的な普及啓発の役割も担っています。

遺伝的多様性の維持に配慮した飼育下個体群の確立

飼育下個体群：30頭
(保護個体・感染症個体を除く)



今後のビジョン ―森里海連環の地域づくり―

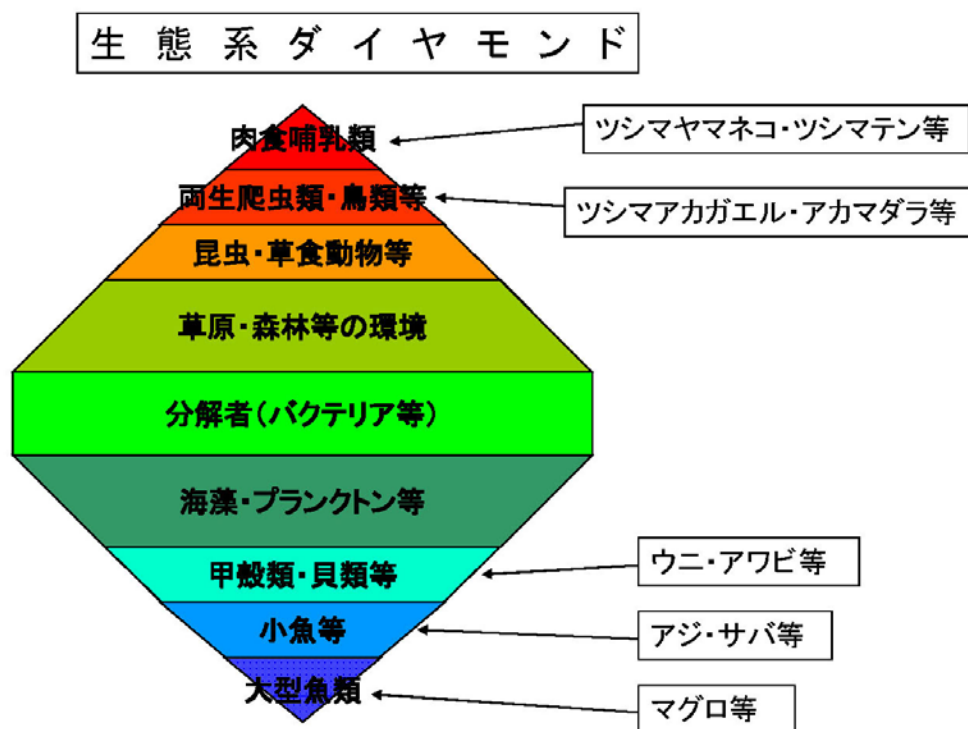
ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりが始まった当初、住民のツシマヤマネコの保全に対する意識は低いものでした。しかしながら、その保全の意義を共有しながら、議論を重ね、人の持続可能な暮らしと、ツシマヤマネコの棲みよい環境が両立できるよう、住民、企業、団体、行政、専門家など、様々な人がそれぞれの立場で互いに連携し、森・農・里の環境づくりを進めてきました。

モデル地区においては、順応的管理システムを取り入れたことにより、事業が効果的に実施され、多くの観光客の受け入れや環境配慮米や炭の販売など、新しい取り組みが生まれました。今後の課題として、舟志区ではバイオマスなど豊かな森資源のさらなる活用、佐護区では積み重ねてきた生き物調査結果を活用した農法の発展、内山区では多くの観光客を受け入れるためのグリーンツーリズムの強化などがあげられますが、この10年間の成果は今後の対馬における新しい地域づくりの方向性を示しているものと考えられます。

しかしながら、このような地域づくりは、現在はモデル地区やその他一部の地域での取り組みであり、今後対馬全島に広げていくことが必要です。そして、島内の住民だけでなく、都市部の住民や世界のヤマネコファンにも広く情報を発信し、連携していくことが必要です。

森・農・里の取り組みは、それぞれの環境の質を高めるだけでなく、連携することでよりよい環境を創出しています。さらに、河川を通じて海にもつながり、海の生態系を豊かにするなど、森から海へと広がる自然豊かな環境を生み出しています。

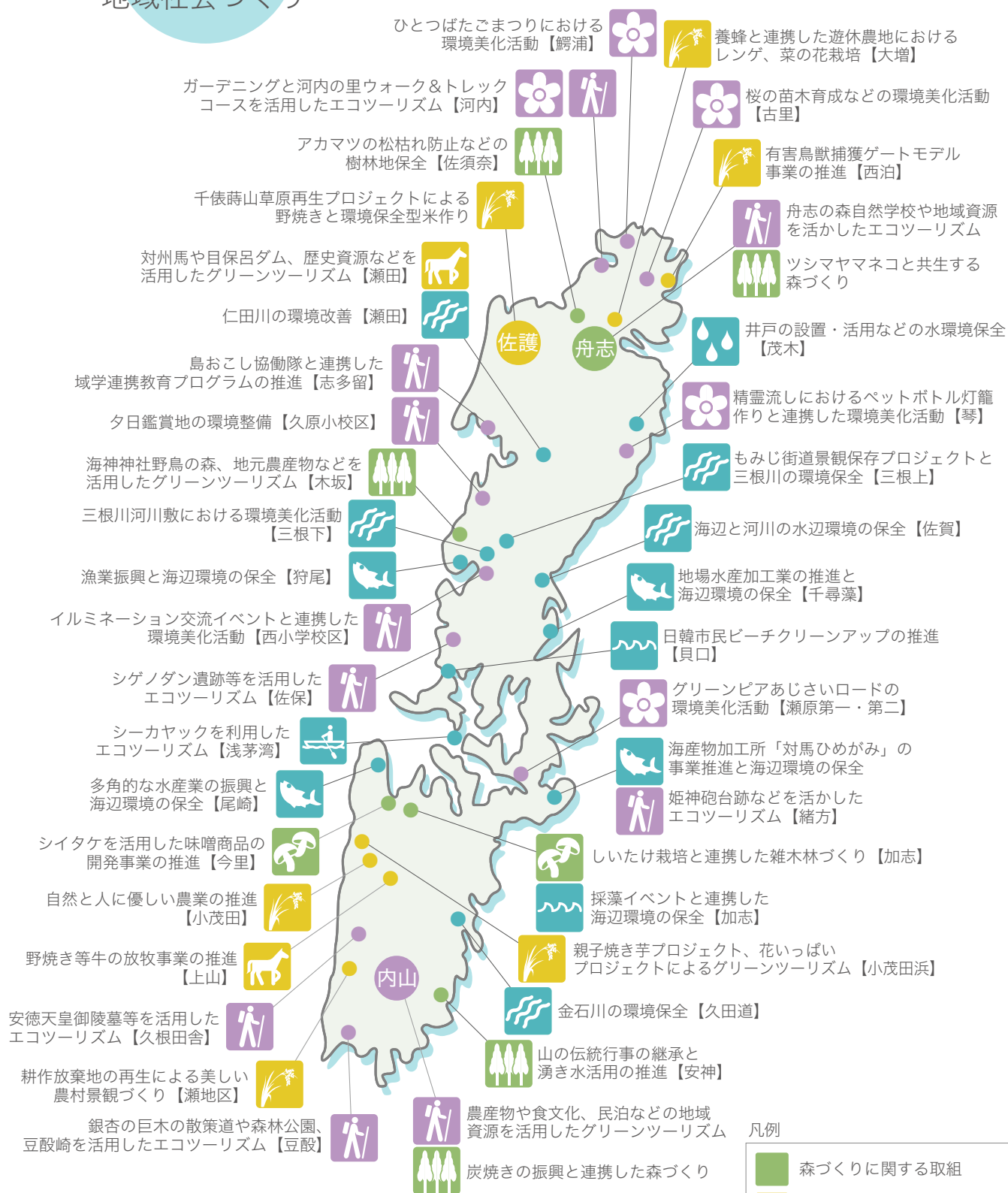
このような森から海へと広がる生態系ダイヤモンドが持続する「森里海連環」に、今後も寄与するよう、これまでの人と人のつながりを広げ、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりをさらに拡充・発展させていきます。



(出典：生物多様性国際自治体会議における対馬市講演資料)

モデル地区から
全島へ広がる

ツシマヤマネコと共生する 地域社会づくり



各地区で展開するツシマヤマネコと共生する地域社会づくりと関連性の高い取組

(対馬市地域マネージャー制度 地域づくり計画、平成 21 ～ 24 年度の地域マネージャー制度の各地区の取組、地域マネージャーへのヒアリングから作成)

ツシマヤマネコと共生する地域社会づくり 10年のあゆみ

発 行：平成 27 年 3 月発行

発 行：環境省対馬野生生物保護センター

所在地：〒 817-1603 長崎県対馬市上県町棹崎公園

電 話：0920-84-5577

F A X：0920-84-5578

E-mail：twcc97@yahoo.co.jp

製 作：株式会社愛植物設計事務所

リサイクル適性の表示： 印刷用の紙にリサイクルできます。
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔A ランク〕のみを用いて作製しています。